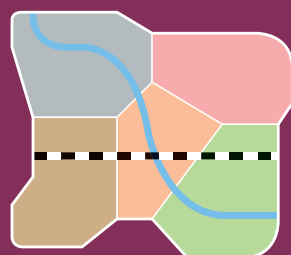


特集

この時代の 「地区担当制」を 考える



保健師の活動体制はかつて地区担当制が主流であったが、母子・成人・精神など分野別の事業の増加や福祉分野への活動領域の拡大に伴い、業務分担制にシフトしていった。しかし、業務分担制は専門性を発揮しやすい反面、地域全体の課題の把握が難しく、現在は人口規模など自治体の実情に応じて地区担当制と業務分担制を併用しているところも多い。本特集では、住民へよりよい保健活動を展開するための活動体制はどうあるべきか、現在における「地区担当制」のあり方を考える。

●保健師の活動体制の現状

全国保健師長会の調査より

●いまの時代に求められる「地区担当制」とは

【わたしのまちの保健活動体制】

●①業務分担制から「重層型」への移行と成果

豊田市の取り組み

●②地区担当制を基本とした「地域に責任をもつ保健活動」

大津市の取り組み

●③地区担当制を活かすための業務分担制の導入

倉敷市の取り組み

●④小学校区別の地区担当制で推進する健康なまちづくり

熊本市の取り組み